

特別支援学級あおぞら 生活単元 【R6 授業】

【研究テーマ】令和5・6年度 清瀬小学校 校内研究

いのちの学習～教科横断的な6年間の学習プログラムの作成を通して～

- 1 ブロック目標 「いのちプロジェクト高学年～いのちの役割を実感する児童の育成～」
- 2 単 元 名 「リーダーシップ発揮のキッザニア東京」
- 3 単元の目標 最高学年としての立場を理解しながら、校外学習を皆と一緒に計画を立て、楽しむことができる。
- 4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①施設や体験活動のルールを理解することができる。 ②上級生としての立場を理解し、話し合い活動などに生かすことができる。	①施設の利用の仕方、行程などについて、みんなと協力して計画することができる。 ②上級生としての役割を意識しながら、グループのみんなと協力して計画を立てることができる。	①自分や周りの人の言動や立場を考えながら話し合う活動を通して、自己の役割や目標についても考えようとしている。

5 指導観

(1)単元観

本単元は、主に下記の内容に基づき設定している。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説（平成30年3月告示） 自立活動編

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること

本校の教育目標を具現化する学校経営方針に「生き方を学ばせるキャリア教育の実践（いのちの学習の実践）」とある。「いのちの学習」において、あおぞら学級高学年では「いのちの役割」について児童が実感をもって学習できるようにしていく。

本単元の学習を通して、生活上の様々な場面での相手の言葉や表情から、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けられるようにしたい。

(2) 児童観

あおぞら学級では、いろいろな機会を通して縦割り班活動を意図的に設定している。そのため、高学年は下級生を引っ張ったり支えたりする役割を果たそうとする気持ちが培われてきている。しかし本学級の児童は行動を起こす意欲にやや欠けている傾向が見られる。そこで2学期の始めより、日常の中で下級生と接する機会が多くなるように、2,3年生と1つの教室にし、休み時間や給食及び清掃の時間は一緒に活動をするようにした。

また、本学級の児童は、コミュニケーションを円滑に行うことができなかつたり、指示や発話を理解することが苦手だつたりするため、学習場面や生活場面において、人と関わることや新しい経験をするに対して消極的になってしまうことがある。このため、人と関わる際にどのような困難が生じるのか、予め考えておくことによって、抵抗感を軽減させたい。そして、新しい体験を

する際にどのように行動したり、周囲に働きかけたりするとよいかを考えたり、体験したりすることを通して、積極的に問題解決に向かう意欲を育て、自らの役割を見付け、行動に移そうとする態度を培っていきたいと考えている。

(3) 教材観

今年度、あおぞら学級 6 年生の生活単元学習は、「自分にもできることがあり必要とされている」という実感を得られる」ことをねらいとして「校外学習に行こう」という単元を設けている。特に、下学年に接するとき、「大丈夫かな。こういう風にするといいよ。」や「困ったら僕に言ってね。」などの声掛けができるようになることを目標としている。

本単元の教材は「キッザニア体験での職業体験」という活動内容のため、どの学年の児童も強い関心をもち、事前アンケートでは一人一人が行きたいパビリオンを明確にして、個人や学年による違いが大きいものとなっている。そこで実際に異学年のグループ 3 人で活動計画を立てるとなると、時間の制約からパビリオンの種類や数の調整が必要となってくる。「下級生と一緒に楽しむために」高学年の自分達の希望だけでなく、下学年の気持ちを受け入れるために、どのような折り合いをつけるかが課題となる。自分のみでも他人のみでもなく、お互いが満足できるように「話し合う力」を育てるために適している教材だと考える。

6 単元の指導計画と評価計画

時	目標	○学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）	研究テーマとの関わり □いのちのやくわり
1～3時	「キッザニア東京」のことを知ろう	ホームページやパンフレットなどを活用して、施設に関連することを様々調べる。	ア－① イ－① （発言）	
4、5時	「キッザニア東京」校外学習での自分たちの行動計画を立てることができる。	6年生同士の3人1組になって、自分の行きたいところをお互い出し合い、相談して一つの行程を決める。	ウ－① （ワークシート・発言）	□自分の気持ちと相手の気持ち、どちらも大切にしようとする
6時 （本時）	「キッザニア東京」の校外学習を下級生と一緒に楽しむために、下級生のことを意識しながら計画を立てることができる。	第5時までに計画した行程に、下級生の意見が加わった時に、改めて前時の予定からどのように計画を立て直すか考える。	ア－② イ－② ウ－① （ワークシート・発言）	□最高学年として、下級生の気持ちを大切にしながら、一緒に計画を立てようとする。
7時	「キッザニア東京」の校外学習を下級生と一緒に楽しむために、下級生と一緒に計画を立てることができる。	実際に「キッザニア東京」で一緒に行動するグループで、どのような行程にするか、計画を立てる。	ア－② イ－② （ワークシート・発言）	□最高学年として、下級生の気持ちを大切にしながら、一緒に計画を立てる。
8～11時	「キッザニア東京」で下級生と一緒に体験活動を楽しむ	実際に「キッザニア東京」に行って、下級生と行動を共にし、体験活動をする。	ア－① ウ－① （発言、観察）	□最高学年として、下級生のことを思いやりながら、一緒に行動する。
12時	振り返りをする	計画から体験活動まで、学習したことを振り返りをする。	ア－② ウ－① （発言、ワークシート）	□今回学習した内容を、今後の学校生活などに生かす。

7 本時案（12時間中 第6時）

（1）本時の目標

- ・校外学習を下級生と一緒に楽しむために、下級生のことを意識しながら計画を立てることができる。

（2）本時の展開

	○学習活動	・指導上の留意点、☆評価規準（方法）
導入 （5分）	○前時までの学習を振り返り、「キッザニア 東京」には色々なバビリオンがあることを思い出す。 ○今回は下級生と6年生の3人組で行動することを確認し、自分もみんなも楽しめるように6年生が中心になることを確認する。	・写真などを提示して、イメージをしやすいようにする。 ・前時と同じグループでこの時間（本時）考えることを伝えておく（同級生同士3人グループ）。
展開 （35分）	自分もみんなもなっとくできる計画を立てよう ○下級生の意見に合わない時に、どのように計画を立てるか考える。 （6年生と話し合った時と違うところ） 自分たちが年上の立場、行きたいところ ○考えたことを発表する。	・前時までで立てた6年生同士の計画に対して、違うところに行きたいと下級生が主張し始めた時のことを想定するようにする。 ・6年生同士で考えた時のことを思い出しながら、今回は下級生と一緒に考えることを意識させる。立場が違うことを認識させる。 ・自分（6年生）がやりたいことを大切にしつつも、下級生の考えを尊重することを意識させる。 ・2グループ（1グループ3人）に分かれて話し合いをする。 ☆下級生のことを意識しながら計画を立てることができたか。（発言、ワークシート） ・個々の実態に基づいた個別評価 ・ワークシートの内容は、選択肢の中から選ぶ形で振り返り、必要に応じて記述もできるようにする。
まとめ （5分）	○今日学習したことをワークシートにまとめ、これからどのように協力して下級生と一緒に校外学習を楽しむか見通しをもつ。	

(3)授業観察の視点

- ・ 自分達の役割を理解し実感して、課題に取り組めていたか。
- ・ 各児童の実態に応じたアドバイスや声掛け、教材などの手立てが適切であったか。